



背伸び好き

今朝（16日）は、朝の空がキレイだったが気がついただろうか？ 日暮れが早くなっているの、下校するころは真っ暗だと感じている人が多いだろうから、夕焼けのキレイさに気づくことは、この時期なかなかないかも知れないが、たまには空を見てもいいことだ。ターゲットや古文単語330を手に、下を向いてばかりではいけない。自然は美しい。

*

…と、なかなか抒情的な（笑）始まりの今号であるが、世の中はそうは言っておられず、どんどん時は流れてゆく。特に3年生はいよいよ志望校を具体的に決定する時期であり、それにつけても本番に近いことを意識しているに違いない。そんな時、日が短くなって風が冷たく吹き付けて来たりすると、気持ち的にも弱音を吐きたくなるものだ。だからこそ、目を空に向けることも大切なのである。

その3年生に向けて、昨日の放課後、東大の古文の問題を題材にした補習を行った。3年生の場合、理・社の学習の比重が高まるので、土曜講習は理・社が中心になる。そこで国語科では、平日の放課後に補習を設定していて、後期になってからは、今回のように「○○大学の現代文」とか「○○大学の漢文」といった問題演習の講座を開講しているのである。私は3年生の文系古文の授業を担当している関係で、火曜日にこの東大古文の講義を行っている。

ちなみに、昨日扱ったのは1999年の問題。最近の問題は、受験をしようと考えている諸君が、それぞれ自分なりに取り組みはじめているはずなので、資料として手に入りやすい

昔の問題を題材にしているのである。かなり記述力が必要とされる問題、しかも、あまり授業では扱わない江戸時代の俳文を採り上げた問題なので、こういう講習にはもってこいの問題である（…自画自賛）。

講習では、まず20～25分程度で問題を実際に解いてもらい、その後、本文の解説を簡単にしてお答え合わせとなる。東大の問題はすべて記述式なので、一応私の方で用意した模範解答を示した上で、生徒諸君にも自分の書いた答案を披露してもらい、その答案でいいのか、別の表現で答えられないか、足りない要素はないか、あるいは、その書き方だと採点者に誤解されないか、といった点を、生徒諸君の質問に答える形で添削しながら講義を進めている。さすがに東大志望の諸君だけあって意欲的に取り組んでくれていて、色々な意見が出て、教えている方としてもなかなか楽しい時間を過ごすことができる。

*

生徒諸君としても、そういう場に参加すると、同じ大学を目指している仲間を見て、「やらなきゃいけないな」という気持ちになったり、「アイツが目指しているなら負けられない」と良い意味でライバル意識が刺激されたりすることがあるようだ。逆に、難しい問題を目にしたら「自分には無理かも…」と思う生徒がいるかも知れないと心配する向きもあるが、今までの経験では、そういうことはほとんどない。プラスの影響を与え合う関係が深まる面が圧倒的に大きい。やはり日比谷生は、背伸びすることが好きなのだろう。